

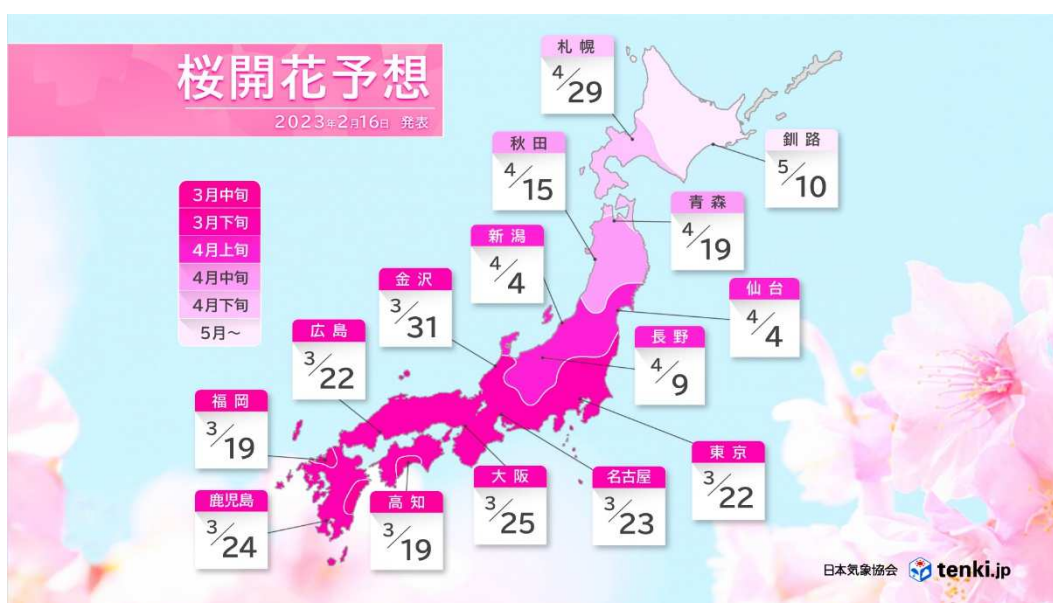
【報道関係各位】

2023年2月16日
一般財団法人 日本気象協会

2023年桜開花予想（第2回） 全国的に平年並みか早め 福岡・高知で3月19日に開花スタート

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国 49 地点（ソメイヨシノの標本木 48 地点と釧路市のエゾヤマザクラの標本木）の桜の開花予想（第2回）を、2023年2月16日（木）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

地点		開花予想日と傾向(平年比)		平年	昨年
鹿児島県	鹿児島市	3/24	平年並	3/26	3/20
福岡県	福岡市	3/19	早い	3/22	3/17
高知県	高知市	3/19	早い	3/22	3/19
広島県	広島市	3/22	早い	3/25	3/21
大阪府	大阪市	3/25	平年並	3/27	3/23
愛知県	名古屋市	3/23	平年並	3/24	3/22
東京都	千代田区	3/22	平年並	3/24	3/20
長野県	長野市	4/9	平年並	4/11	4/9
新潟県	新潟市	4/4	早い	4/8	4/8
石川県	金沢市	3/31	早い	4/3	3/30
宮城県	仙台市	4/4	早い	4/8	4/8
秋田県	秋田市	4/15	平年並	4/17	4/12
青森県	青森市	4/19	早い	4/22	4/16
北海道	札幌市	4/29	平年並	5/1	4/23
北海道	釧路市	5/10	早い	5/16	5/8

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



開花の傾向

2023年の桜の開花は、全国的に平年並みか、平年よりも早く開花するところがあるでしょう。

桜前線は、3月19日に福岡、高知からスタートする見込みです。20日には宮崎、21日には熊本で開花するでしょう。東京や和歌山、広島、大分などは22日に開花する見通しで、3月末までには九州から関東の広い範囲で開花するでしょう。4月上旬には北陸や長野、東北南部で、4月中旬には東北北部で開花し始め、4月下旬には桜前線が北海道へ到達する見込みです。函館では4月26日に開花するでしょう。

この冬(12月以降)は全国的にたびたび強い寒気が流れ込み、12月は全国的に平年より気温が低く推移しました。1月の気温はおおむね平年並みだったものの、下旬には非常に強い寒波が襲来し、全国各地の観測地点で、観測史上最低の気温を更新するなど、記録的な冷え込みとなりました。このことから、桜の花芽の休眠打破^{*}は順調に行われたと考えられます。

2月下旬は一時的に寒気の影響を受けるため、気温は全国的に平年より低くなりますが、3月以降は寒気の影響を受けにくい予想のため、気温は平年並みか高くなる見込みです。また、前回予想時よりも高温傾向で推移しているため、予想開花日は3~4日前後早まる場所が多く、平年並みか早い開花となる地点があるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーびー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991~2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 26 日(木)	第 2 回 2 月 16 日(木)	第 3 回 3 月 2 日(木)	第 4 回 3 月 9 日(木)
第 5 回 3 月 16 日(木)	第 6 回 3 月 23 日(木)	第 7 回 3 月 30 日(木)	第 8 回 4 月 13 日(木)
第 9 回 4 月 27 日(木)			

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5~6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月、2 月中は 49 地点、3 月以降は全国で 84 地点を予定しています。予想地点 84 地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる 31 地点となります。

*当初は 89 地点の発表を予定しておりましたが、検討の結果、84 地点に変更となりました。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 17 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。